

田京・広瀬神社
三番 叟 演者

梶山君1大仁中と遠藤君6大仁小

県伝統芸能サミットに参加



伝統芸能子どもサミットに出席する梶山君(手前右)と遠藤君=静岡市のグランシップ(提供写真)

県文化財団などが主催する「伝統芸能子どもサミット」に、伊豆の国市田京の広瀬神社例大祭で奉納される三番叟(さんばそう) 演者の梶山晴翔君(大仁中1年)と遠藤立樹君(大仁小6年)が、出席した。各地域の伝統芸能に関わる子どもたちと共に、芸能の魅力や未来への希望などを考えた。

2020年東京五輪人が出席した。パラリンピックに向けた県文化プログラム「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」関連企画で、このほど静岡市のグランシップで開かれた。11団体から31

を話し合った。全体会議で発表する声明も考えた。

約400年続く田京

の三番叟は「式三番(しきさんばん)」と呼ばれる。梶山君は三番叟、遠藤君は千代(せんだけ)を担当し、昨年11月の例大祭の他、例大祭前に開かれた「関東ブロック民俗芸能大会」、今年5月の静岡

でも演じた。代表してグループの声明を発表した梶山君は「いい経験になった。大人になってもこの場所にいれば、同じような活動に参加できるのを出たいと思う」と話した。分科会で意見を述べた遠藤君は「緊張したが、伝統芸能を行うときの基本も学べた。新たな気持ちで挑戦できると思う」と話した。